

1. 繰り返す

部活動同様、勉強にも基礎練習や基本練習があると思います。勉強に大切なのは、「やる気と根気だ」というようなことがよく言われますが、基礎・基本がしっかりしていなくては、やる気も根気も出ないでしょう。だからこそ、学校では単語練習や四則計算等が繰り返し行われるのです。

もう少し部活動の例えを続けます。基礎練習や基本練習は大事なことはわかっているけれど、あまり面白くないのも事実で、強制された上にみんなと一緒にでなければ、とても続けていられるものではありません。雨の日に、運動部員が大きな声で腹筋運動や腕立て伏せ等をやっている姿を見るにつけ、ああやって苦しさを紛らわせているんだなと思います。でも、その練習も繰り返し取り組んでいるうちに苦しみが薄れてくる経験は誰にもあることでしょう。

私は、中学生時代に英語が苦手な本当に苦労しました。今でも高校入試問題を前にすると、数学には進んで取り組んでみようと思うのに、英語は必要がなければやってみる気になれないのは、その頃の影響が今でも残っているからに違いありません。私は数学は大好きでした。入試問題なんか難しいと感じたことすらありませんでした。振り返ってみれば、それは数学の先生が非常に厳しい方だったからです。先生に怒られるのが怖くて、一生懸命勉強しているうちに得意科目になっていたのです。怠け者だった私は、このように強制されないと勉強をしようとしないうちだったのです。そんな私も入試を意識する頃には、英語の成績をどうにかしなくてはと考えるようになり、手始めに教科書の暗記に取り組むことにしました。1年生の教科書の最初に出てくるI have a pen. から「Iは私だな、haveは持つだな、aは一本だな」という感じで、非常に効率の悪い勉強法でしたが、とにかく半年近くもかけて一冊隅から隅まで丸暗記し終えました。しかしそうやって一冊終えると少し自信がつくもので、2年生の教科書には割とすんなり取り組むことができました。基礎練習の継続が苦しみを次第に薄れてさせていくように、英語の暗記の苦痛も、やり続けるに従い軽減されていったのだと思います。3年の教科書の途中まで暗記したところで入試に突入してしまいましたが、その頃にはテスト問題も以前ほど理解しがたい存在ではなくなっていました。

2. 人に教える

試験直前に教科書の重要語句を一生懸命暗記したのに試験が終わってしまえばきれいさっぱり忘れてしまう、という経験は誰にもあることだと思います。一生懸命暗記してすぐ忘れる。この繰り返しばかりでは、せっかく勉強にかけた時間が無駄になってしまうので、暗記したことを記憶として脳みそに定着させる工夫が必要です。私は、英単語のような単純暗記なら、カードを用いるのが最も効果的だと信じています。空き時間（休み時間や配膳時間がいい）を使ってカードをめくっていくのです。覚えたカードはちぎって捨ててしまうやり方を進めていくと、中学生ぐらいの年齢ならカード一束（この数え方でもいいのか？）くらいあっという間に覚えてしまうと思います。問題は、その簡単に暗記したことをいかに定着させるかということで、これには教科書を開いて覚えた箇所に赤ペンで塗りつぶしていく作業（寝る前がいい）がいいのですが、もっと応用の効くやり方を求めるとしたら、やはり問題集にあたってみるしかないでしょう。覚えて教科書でチェックし、問題集で確認する。これは非常に効果的な学習法だと思いますが、しかし怠け者の私には、こんな面倒なことはできませんでした。その代わりにもっと効率のいい定着法を考え出しました。それは、覚えた事柄を人に教えるというやり方です。いや、英語の劣等生が人に教えるなんていうことはできませんから、ただ前の晩に覚えたことを、友人に向かってしゃべり続けただけのことです。友人たちも迷惑だったと思います。中でも一番被害を受けたのは、外交官を親にもつ友達で、彼は英語がペラペラだったにもかかわらず、私の拙い丸暗記の確認によく付き合ってくれました。こうして書いていると、その厚い友情に対し、もっと感謝の気持ちを伝えておくべきだったと今更ながら思うほどです。

3. 我慢する

勉強は苦しいものです。できることならやらないで済ませてしまいたいくらいです。定期テスト3週間前からきちんと計画を立て、その計画通りに勉強を続けていくことのできる強い意志の持ち主なら、勉強は楽しいと思えるものなのかもしれませんが、そういう人ばかりではありません。私などは計画を立てることすら苦痛でしたから、定期テスト勉強など嫌で嫌で仕方なく、テスト当日に学校が燃えてしまえばいいのにと何度考えたか知りません。でもそんなことをいくら考えたって、テスト日はちゃんとやってくるし、それにテストがなければ勉強に取り組むことさえしない怠け者生徒だったことも事実だし、とにかく勉強が好きでも嫌いでも、私のように勉強嫌いな人は特に、我慢して机に向かわなくてははいけないのです。我慢して勉強を続けていけば、やがて得意になり、勉強も好きになるかといえば、そんなふうにはうまく行くわけではありませんが、それでも我慢して勉強し続けなくてははいけないのです。それは中学生の義務だからです。